



## 前期後半のスタートです

学校長 久城 博之

37日間の夏休みと緊急事態宣言に伴う休校期間を経て、9月13日(月)までは分散登校という形を取ることとなりましたが、子どもたちの元気な声が学校に戻ってきました。休み中大きな事故や怪我もなく、全員がそろって学校生活を再開できたことをうれしく思っています。

今年の夏も残念ながら新型コロナウイルスの影響で、思ったようには過ごせなかったかもしれませんが、それでもきっと貴重な体験や思い出もできたことと思います。ぜひ、夏休みに得た経験をこれからの学校生活に生かしてほしいと願っています。

さて、この夏は大きなイベント、「東京オリンピック」が開催されました。「コロナの感染者を増やしたのでは。」という批判の声もありましたが、「開催していた毎日に元気や勇気を与えてくれた。」という喜びの声も多くありました。無観客の中での開催など、異例づくめの大会ではありましたが、アスリートたちは素晴らしいパフォーマンスを見せてくれました。スポーツの力が、新型コロナウイルスとの毎日に疲れて、閉塞感が生まれていた社会に勇気と元気を大いに与えてくれたと思います。そのオリンピックの中で、私が強く印象に残ったのは、最終日の男子マラソンです。ゴール目の直線では、2位を争う3人が接戦で走っていました。オランダのナゲーエ選手が2番手に浮上すると、必死で走りながらも後ろを振り向き、右手でベルギーのアブデイ選手に、「来い、来い!」という仕草をしています。その仕草に勇気づけられたかのように、3位に上がり、二人はそれぞれ銀メダルと銅メダルに輝きました。なぜそのような仕草をしたのか、レース後の記者会見でわかりました。二人はともにソマリア難民でした。ナゲーエ選手は、「二人とも互いの家族も友達もよく知っている。今でも夢みたいだ。隣にいられることがうれしい。」と、インタビューに答えていました。二人はソマリアを出た後、様々なことを経て、オランダとベルギー代表となったのでしょうか。表彰台に誇らしげに並んでいた二人を見て、最終日に、平和の祭典という五輪の意義を改めて感じることができました。

ところで、残念ながら今年の夏も、九州や四国地方をはじめ、日本の各地で集中豪雨による大きな被害がありました。土砂災害等の被害をニュースで見ると自然災害の恐ろしさを実感します。横浜でも台風や地震等の災害への備えは決して怠ることはできません。本校では今月中に総合防災訓練を行う予定です。耐震工事済みの校舎は安全ととらえていますが、放送設備の不具合や負傷者が出た時等を想定した指示・伝達訓練を行います。学校に子どもたちがいる時に震度5強の地震が発生した場合は保護者への引き渡しとなります。今回の訓練では行いませんが、10月には引き渡し訓練を2回に分けて実施しますので、ご協力ください。また、9月5日(日)に予定されていた、「平安小学校地域防災拠点訓練」も残念ながら延期となりました。詳細は今後の各町会自治会等のお知らせ等でご確認ください。

デルタ株が広がり、まだ感染状況が悪化しているコロナ禍の中での学校生活となります。行事の変更や中止等も考えていかななくてはなりません。感染症対策には十分気を付けて、子どもたちの体調にも気を配りながら進めていきます。引き続きのご支援ご協力をよろしくお願いいたします。